

第5回宮城県東日本大震災アーカイブス連絡会議

11月8日 15時～17時 メモ

<連絡事項>

資料・ちらし

20世紀アーカイブ仙台-「伝える学校」とReadyfor(3.11キオクのキロク)の
宣伝

宮城県図書館-「震災の記録を図書館に」写真展(沿岸部の空中写真など)の宣
伝

みちのく震録伝-国際シンポジウム1月11日開催プレスリリース

シンポジウムの際、各団体の活動を紹介するポスターを展示する。宣伝した
い資料など準備をお願いします。連絡会議の位置づけなどは？(草の根団体とう
えをつなげる連絡会議として)連絡会議で相談しながら公表していく(坂田提
案)。

<事例報告>

20世紀アーカイブの発表(佐藤さん)

活動報告-2009年設立 大正・昭和の8ミリや写真を収集・保存して、構成
に残す。-展示場にて発表、そこから奏でる思い出話を記録してきた。

荒浜小学校(給食時間)写真の例-「記憶は風化する。だからキロクする」

アーカイブの資料

1. 何を、どう使う。
2. 何を、どう伝えれば良いのか？

活用の方法

1. 撮る(定点観測)
2. 集める(画像収集)
3. 語る(拠点)
4. 聞く(オーラルヒストリー)
5. 編集する(タグ付け)
6. 観せる(展示会)

東日本大震災も同じフローで行った。(巡回展を昨年行う)
震災被害状況が分かる、生活状況が分かる(半々の割合で)

震災後のフロー

3.11(震災発生)

3.22 ツイッターで画像募集

4.4 ウェブ震災記憶 Web アップ

4.7 余震で倒壊する

定点観測(3年間)

「もういちどみてみよう3.11ツアー」(2013年6-9月)

学生によるツアーを実施-参加者(外国人・県外の方々・被災地の方々も参加)

「3.11しみんアーカイブ部」メディアテークにて写真展

「3.11震災アーカイブ公開サロン」写真にオーラルヒストリーをつける・
自分もそうだったという共感を語る・

「昭和の仙台8ミリで楽しむ茶会」仮設などで開催。思い出を語ってもらう。

それをキログする。自分集を集めて地域史として残す。

地域アーカイブと震災アーカイブの融合が可能

(思い出、記憶をアーカイブの中に埋め込むという活動)

Q&A

百貨店でのイベントは年齢層にあっているので、良い。

写真収集は図書館などに問い合わせるのか?市民アーカイブ団体が行っている。

宮城県図書館では保管している(郷土資料として)

東松島図書館-デジタル化する方向(昭和の航空ショーの写真)

変化の分かるもの・変化が無いもの の重要さ 定点写真で観て行く。

被災地ツアー音声アプリ作成している佐藤さん(DMI株式会社)

宮城県図書館 震災文庫整備チーム

資料収集スタートが遅かった。復興に時間がかかる。5・15日再館した。

被災地の図書館における被害を支援(南三陸、名取市)

普段の業務に平行しての業務は難航。

24年度4月から収集整理開始。35市町村を周る(役場外、商店街など)

今年度からデジタルアーカイブを開始

課題として、**人手と資金**が不足。

デジタルアーカイブは図書館としては資料の提供としての一つ。あくまでも材料。図書館としてのスタンスは自分たちで作らない。（作ったものを頂いて、保存する）。（1月の国際シンポジウムにて発表予定）

Q&A

阪神淡路震災との塩梅は??? 例えば、時代的に違う（当時はマスコミから収集できた）現在は素材、収録不可能。臨時災害 FM はオッケーなど。

千羽鶴、応援旗などどうする（立体物）??? 断る場合もある、写真にして提供可能。リアスアーク美術館は物を収集。震録伝では写真として受け付けている（多賀城市）市町村との連携状況：それぞれの自治体で考え方が違う。

<まとめ>

活動費についてー20世紀アーカイブは助成金など。。ギリギリの状態。

宮城県図書館-公務員なので、時間外の勤務で収集活動。

連絡会議の意義として、人手などのサポートする。

市民の理解がないと確立できない。たとえ集めても使われないと、予算もつかない。（東松島市）

収集過程の苦労について→ビラ、写真など作っている本人も意識が無く、残らない。アーカイブイコール個人情報などで尻込みしがちが現実。

インターネット上でもビラは多々有るはず。

次回

12月13日 15時～

忘年会

内容：国際シンポジウム（1月11日）の対策会議

シンポジウムに向けての連絡会議発表（坂田）

多賀城市の紹介（柴山）

シンポジウム前にディスカッションを開催予定（海外のゲストとともに）。

